和漢名画功
版元蔦屋吉蔵
1
へ13
2378
143

特 13 遠 2378 143

式亭小三馬 全四冊
五雲亭貞秀画 上の巻

和漢名画功

天保九戌の初春

蔦谷吉秀 梓

京都帝大

寶樓閣經の竹の中ゐ。顔色端正の童子と得く。正覺をとりし故支萬葉集第十六ゐ竹取の翁九箇の神女ゐ逢こる夏等撮合せて竹取物語い出来しめるべ。さまでバ大同竹の故き物語ゐしそ。物語の魁首と孟宗竹。ふとそ恵の尺田ゑ胡麻竹のごまりたる作意いあるべ。其物語をたゐ直しそ竹本豊竹の一節ゐ残り。竹田の舞臺ゐ傳りしと。呉竹の浮世繪師貞秀ぬしの筆ゐ寫し植て。煤竹のふるびと去晒竹の白きとまりく。敬亀甲竹ゐあやる。篠竹の五把ゐたなる。今年竹の新版とハるる。原来掉竹の永そをいとバ言の葉の般系ゐを刈節々と削ゑて竹紙の端ゐまるる。

天保九年戊戌孟春新版　式亭小三馬戯題

福州の聖主
德宗皇帝の臣
高祿大夫雲南
後一吳道子
安陽侯林宦
吳道子が
画一雲
龍の精

藤原の加納卿の
息女 色香の誉
縣右馬頭仲國の
養女とある
日本繪師
巨勢金岡

坂上の田村丸利秀
後ニ雌の剣奴議の
為姿と畧ー竹取
の翁が家ふらつこ
勇助と寝名も
竹取の翁が娘
小竹

護法九
実ハ本朝三筆の
其一人 橘の早成

竹取の翁
実ハ福の早成ゞ乳父
物部治官

あらくん 人皇三五十二代さうの天皇とゝもなりけんくわてうてうを
村九と一ゝでさきくされいろんくうる
ふぢつのかるハ〻武ゝくさのうの上の田
みてくゝ

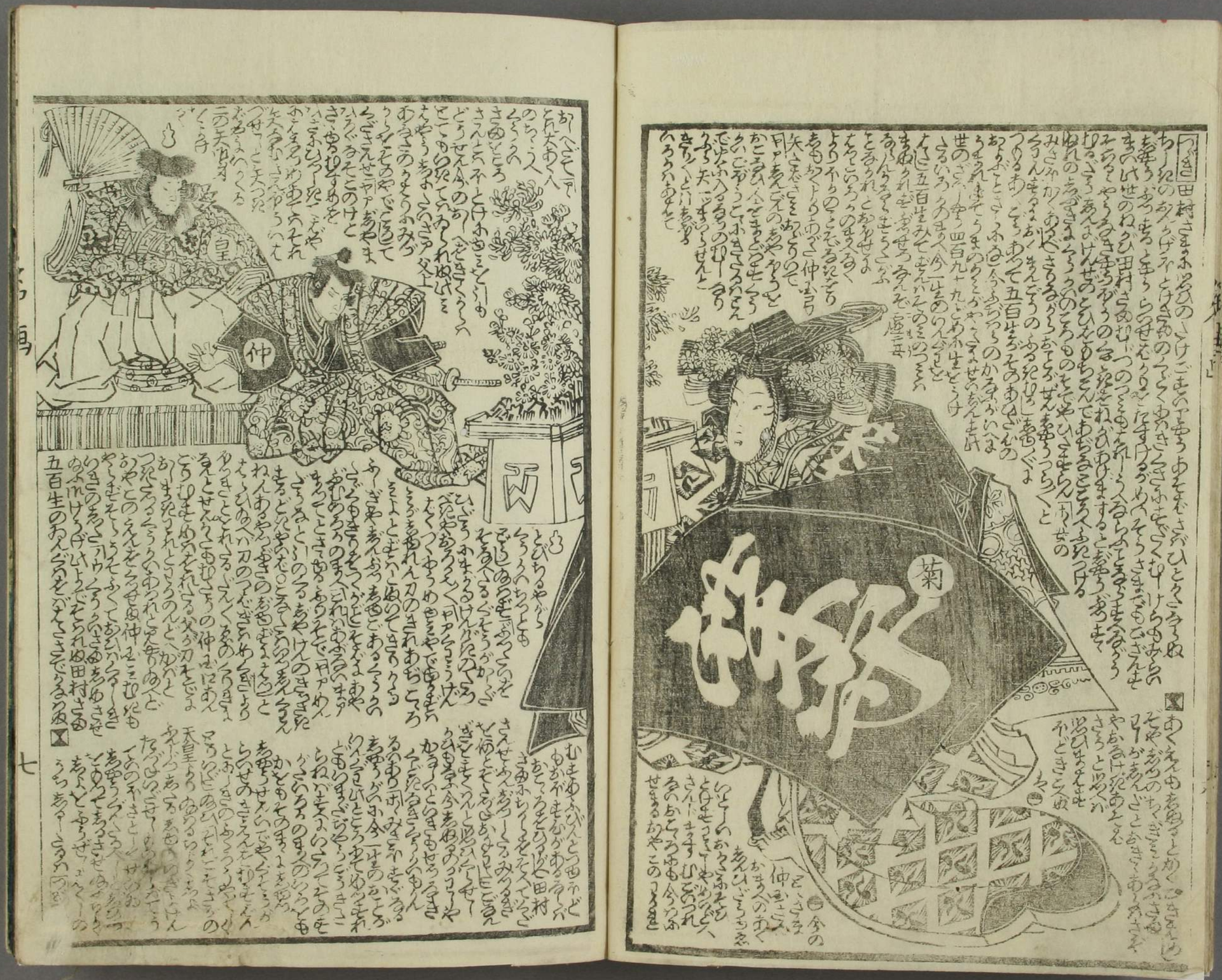
巨勢の金岡ゞ娘
田毎姫

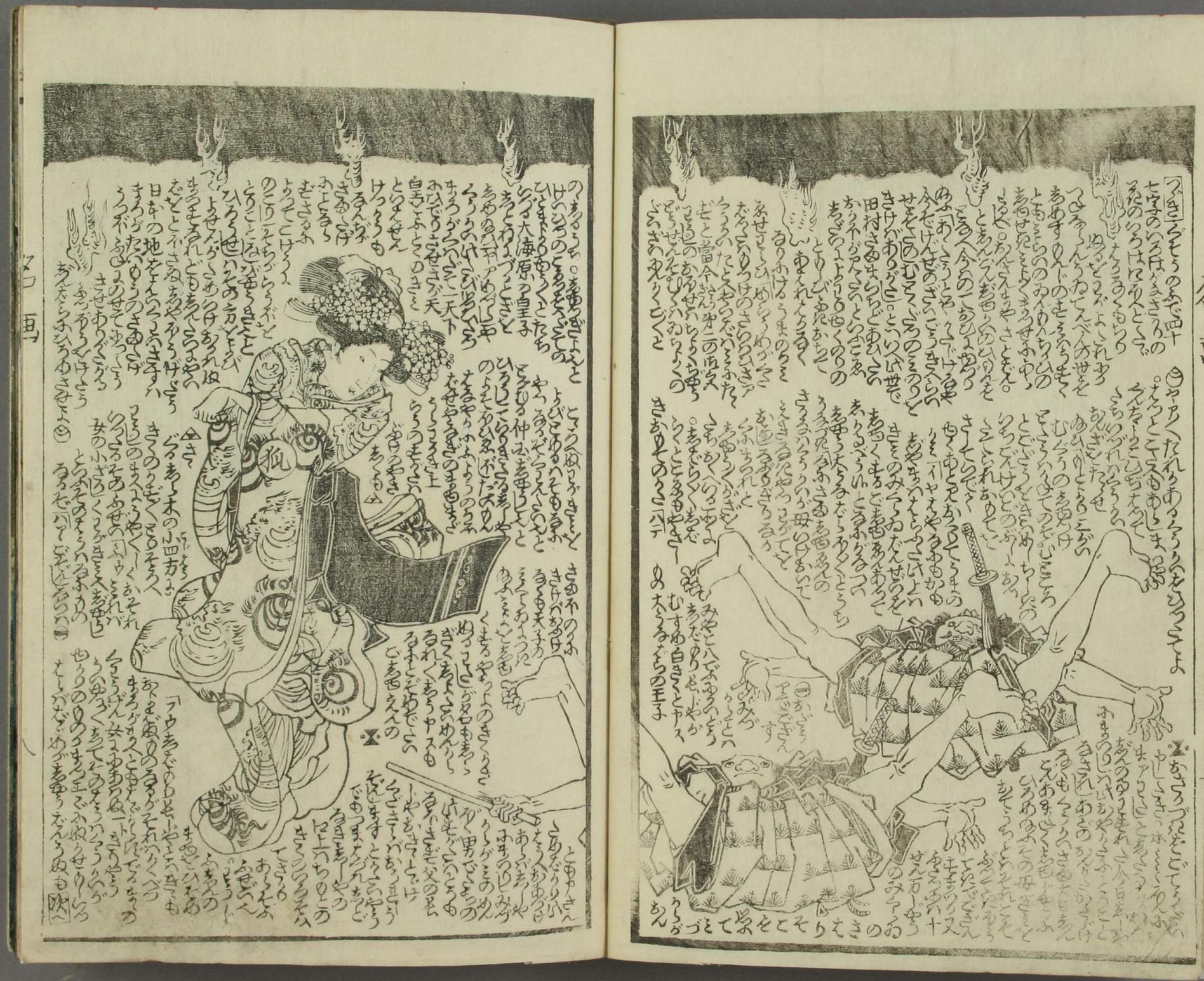
無悪善

大江の助千里

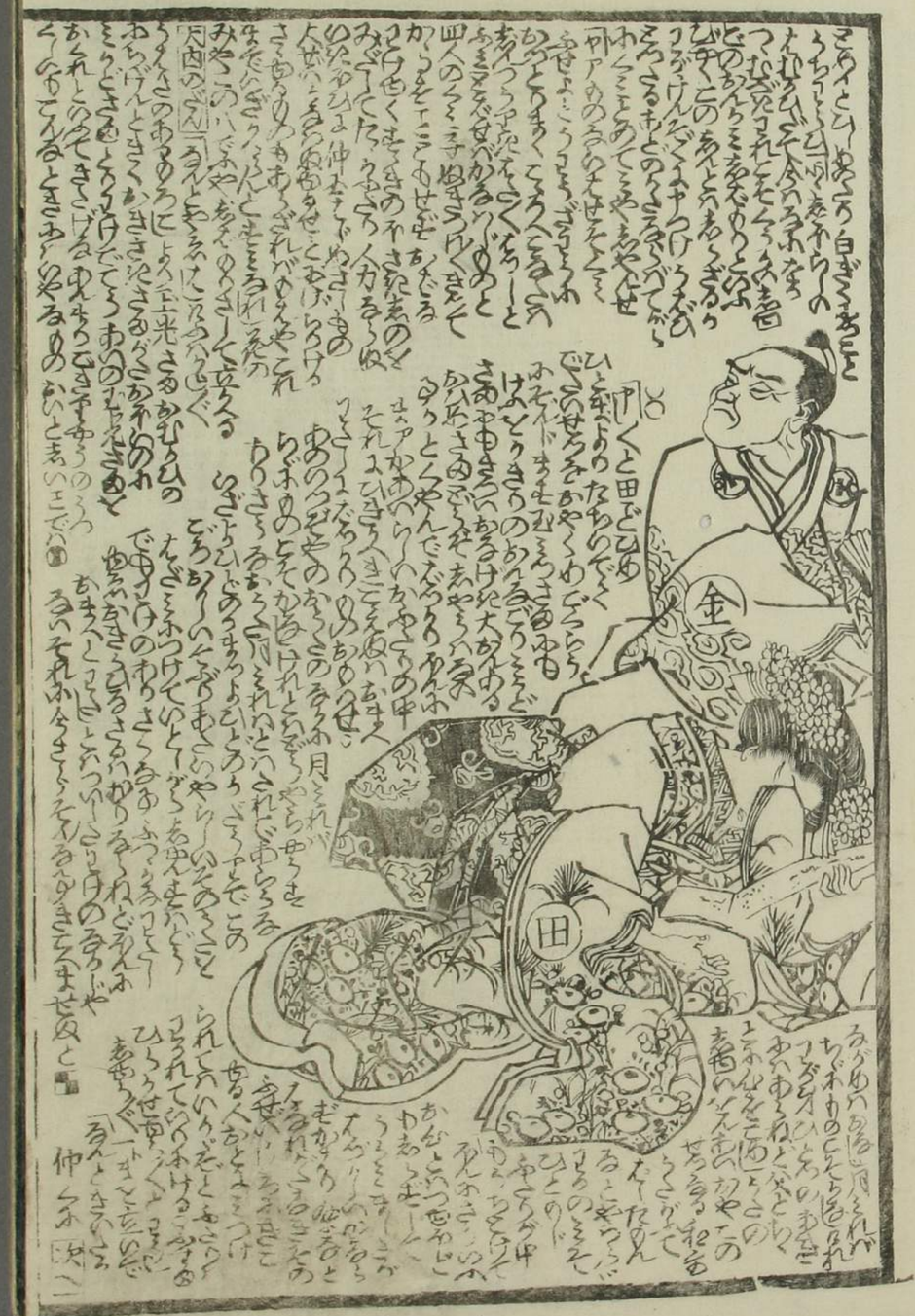
王
車
千
田

第二級


菊
仲



千


金
田

本家江戸本町二丁目　鯨屋長右衛門　ひのくすりとうしん
武亭三馬製

江戸の名薬

大絹代百四十文　つぎ大夏　中絹代百文　つぎ大夏
小絹代五十文　つぎ大夏

御類の菓子　吾妻香　桐　たとう入　一百四十文　一百文　五十文　三十二文　袋入　五十文

寒のうち出製　御名香押入

別製　御懐中果げ　あぶらまぬの

代　五十文

●あらゆる病の大妙薬　●ぜんそくの特効薬　●ぜんそくの特効薬
●ぜんそくの特効薬　●ぜんそくの特効薬

真秀画　小三馬作

つぎ　むしやうのうぜとちりてんあこれんごろもとやてしづとひのもみこくふ

ひせくるおんあいのせのてーはうれるるるりけりたやろうてくるれをうづるれはのーろれをうづるとりのとくるドのらうれ唐仏

あくてであく一さぐう唐仏あつてるーすでをんくりとちりくせのーとそをくくちどろきいつぎ及ひのそろぼまをうそくのーうろいをとたそうそれはすめはいつぎ及せよとこるくうちられくりふけるうさう仏のてのぎをうさうかからふやーさんをおあ深衣えのふきをみこと八王郎たらくのけうのこんでまぎくくとうちをれがるるちかるふけうぐいのもひめをこりるくさちのづるたぐひふ一揖ちうとあるうちるうろそそそうのはらいてうひくろうせんだんとあそのるーさう風ろうんくとまをぐふくりそれがーのんとそそうろ行ってのまるうあるうろ林宮ちんとやスめのさえぐろてあるられーるん女の子つのそのうちふ王克ひあそそひまをのるきう

◆いそぐてぐふへさーあるられよとまよのんをのつてけしてもたぐ仏むうひのらいのてうどくうのいくぐたやこくとトスゆそろるあつてまんて「おろせのとりくるてまちうけまるあり三ぐ使のあまちぐさとりらぐーこんちまぐあつてきあまをまんぐんをぐさまふ二どひくくりのひめちくことうーーみくくうもうるぐを「ふたりくふさうんるきぐそろひめたーうふうけをるうくくはんやあんくちとくをひれがるるあつひのまくよてをつくけふをりぐりのくるねのくあるるくうのるーるくどまよどやいてくぬ

●ぜひもるぐをいやとおりくいくんまり必ハあやこのいとをくびひめるるくくそちあるくうるるさまるゆもくくふもずのふんごぶーでとうんるるをもふくこのるるるとこまわるせおめくこのるるれ正使ものちをこのことあるりくうらのぐまうをろとうのちくーなんのをとひドやうをきんぐるるんぐくのあやくるれのきまうぐるふあいぐるをくもちろのうちかくふちち千里もるぐをのをそどんあるるとをのうまあるるみてくををるるるをぐのるるるあやこふうふのるれのるるちくとロをーのいのせのりるくとふらぎちをむきぶらぎちをあくふるーるくどまよどやいてくぬ

中

2378
143

小三ゴロさく
竹の
名画
功
岳の
肇素
つるき
椿

第三級

名画

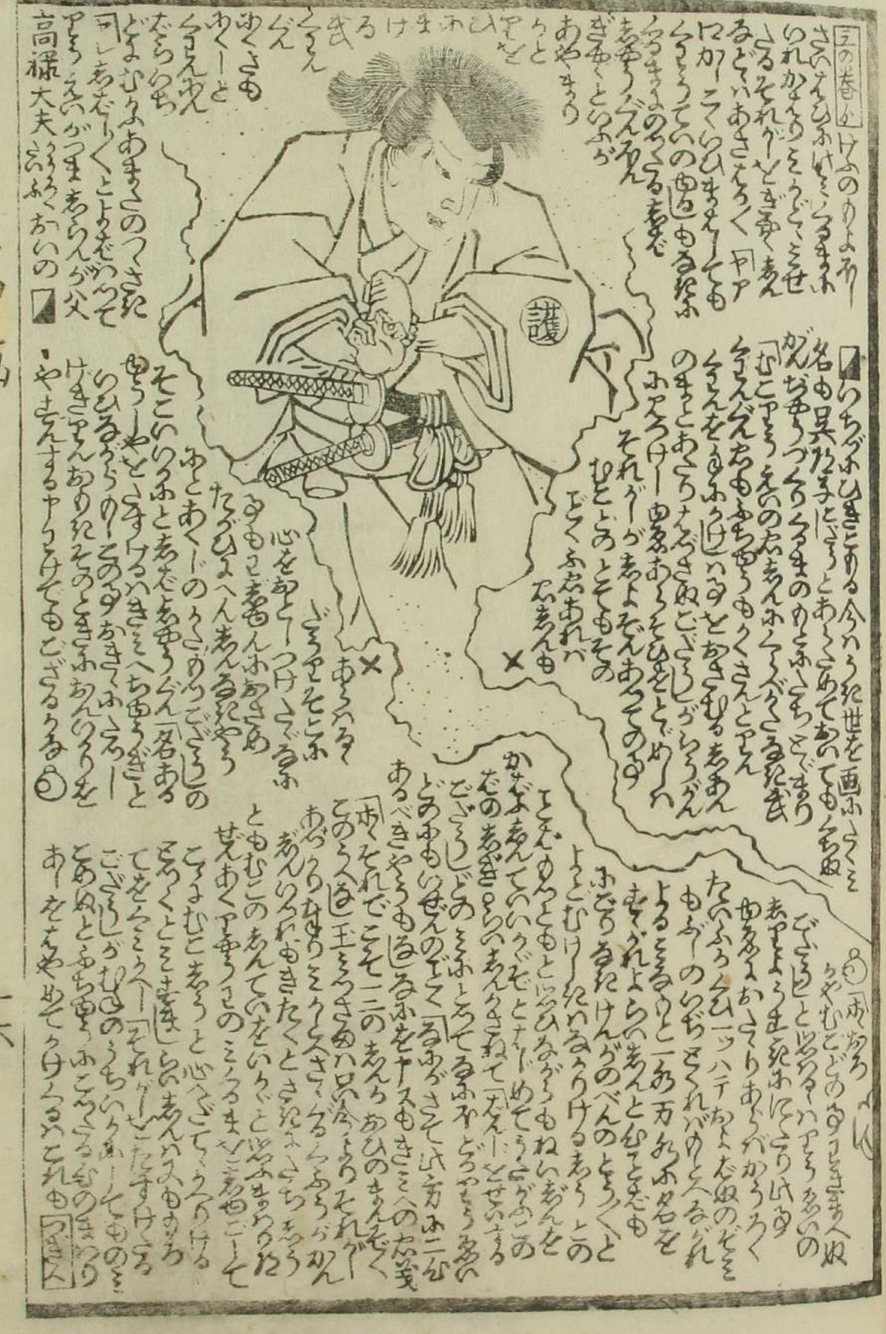
竹

秀

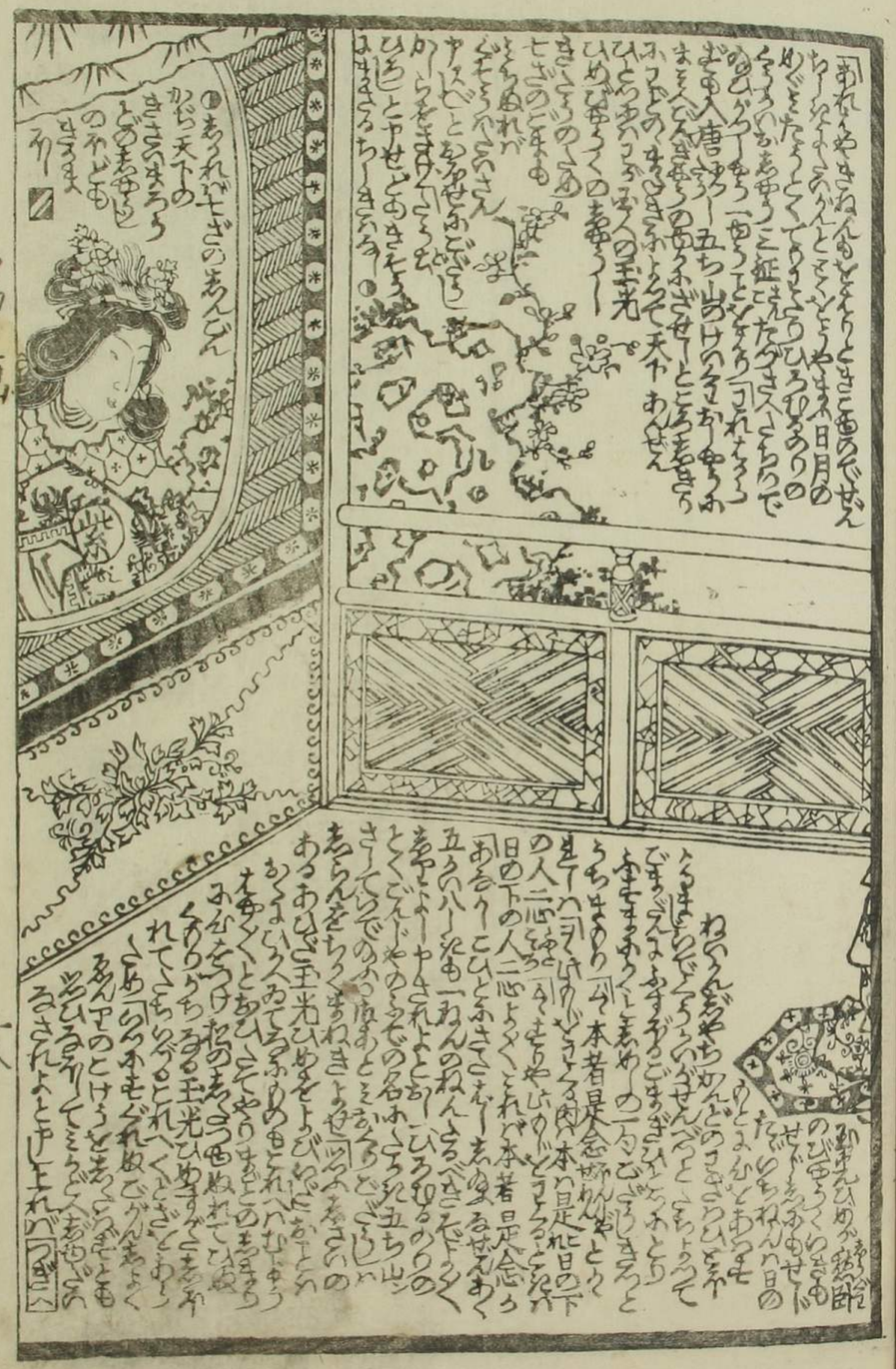
秀

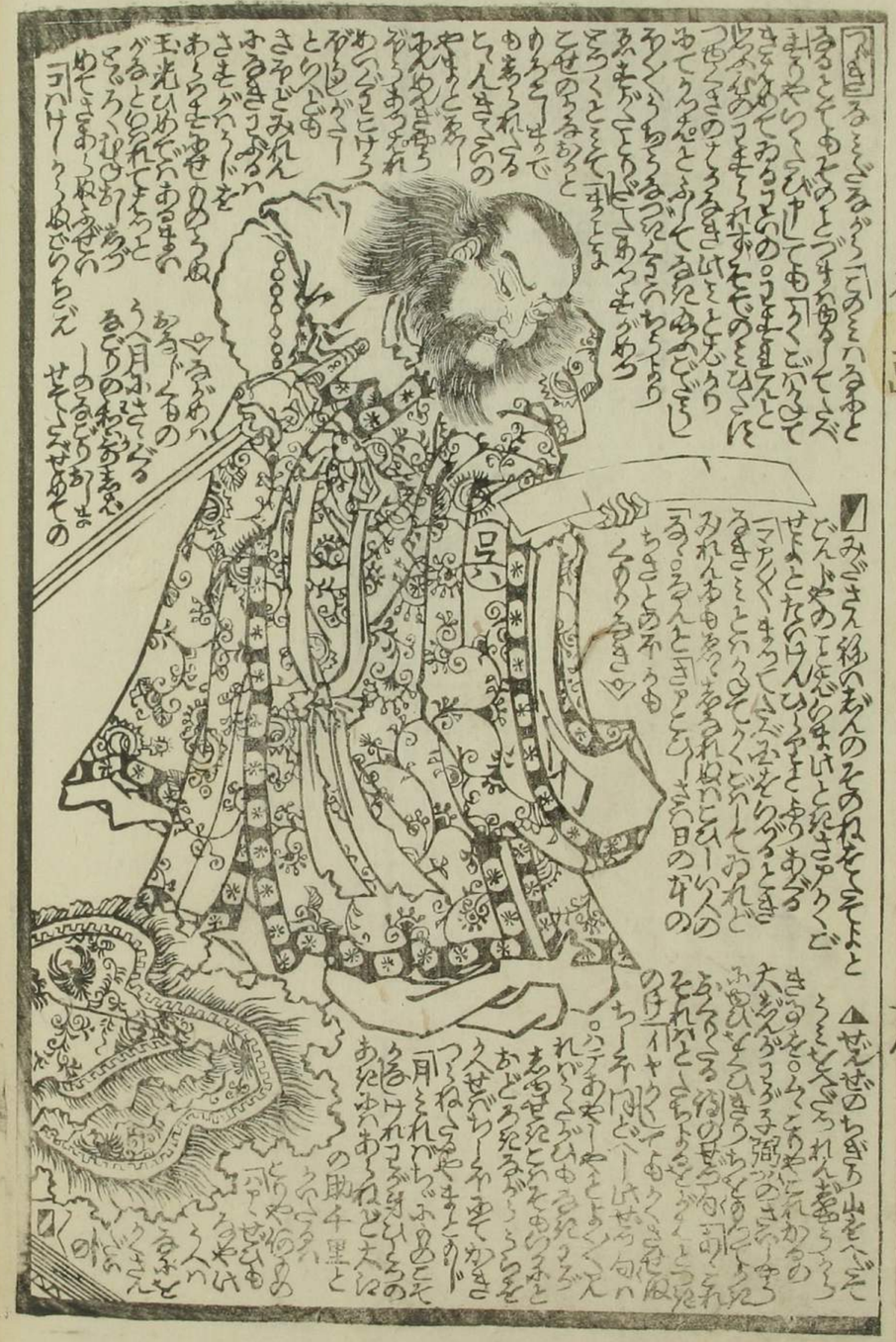
竹

帯


護

空
呉八


①あつれば七ざのあんごん
かぢ天下の
きさのまろう
とのまゆ
のかぢも
きうま



雷

王
呉

仙傳人参郎効油
あぶら薬・一貝五十文
引風膏
一切ゆそくきうまきりいそ頭痛ケ樣
一門ゆそくきうまきりいそ頭痛ケ樣
即効あり
御新製薬
あらひこはらん
大包百文　小包五十文
薄化粧
本家江戸本町二丁目
式亭三馬製

式亭小三馬作
五雲亭貞秀画
坂元蔦吉
下

2378
1433

小さんるさく　下のまく地
貞くあ　ちかく

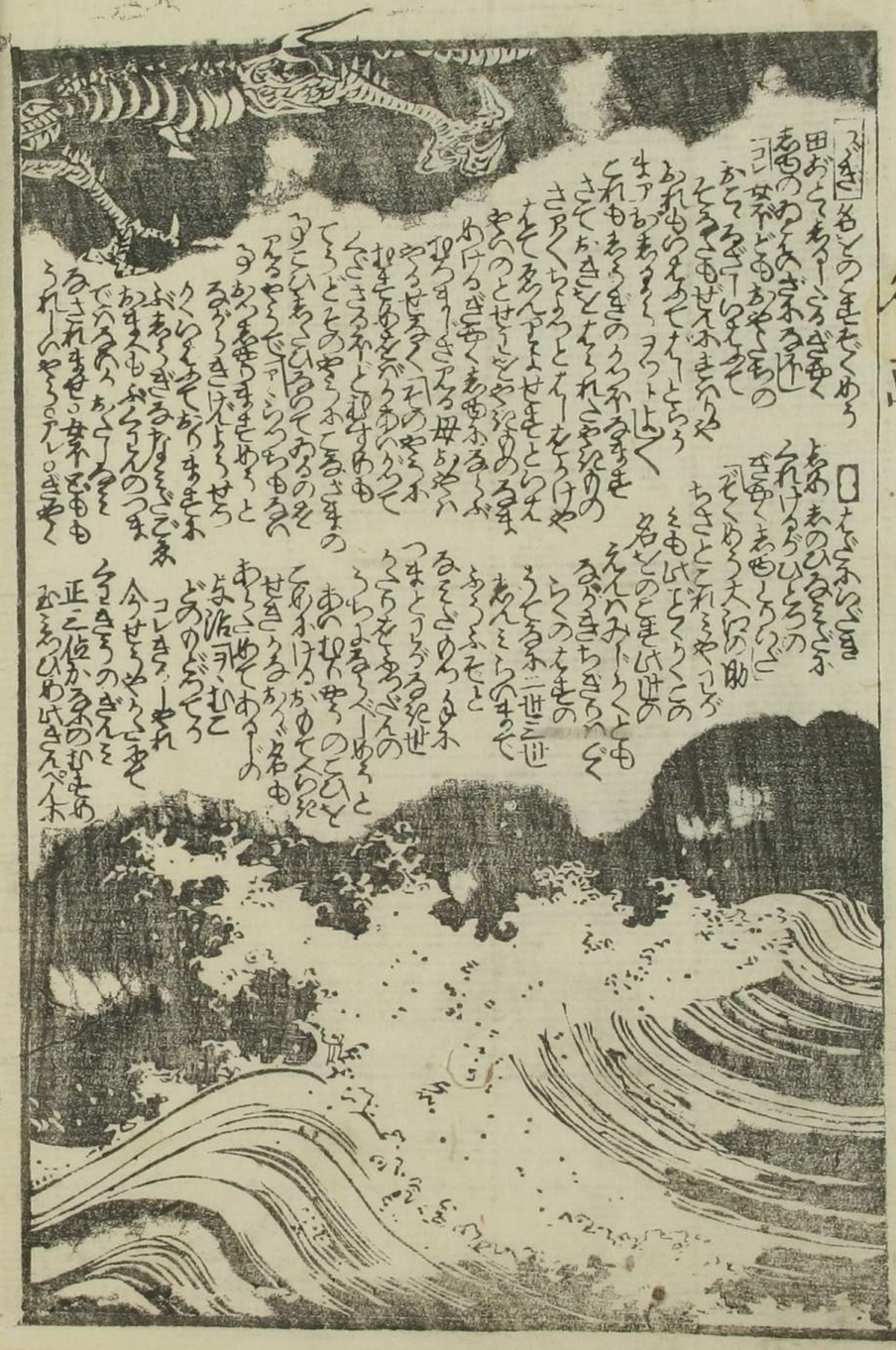
多くん　面白　功

いめの　ちんまり
ちんぶく　ちくあ

第五編

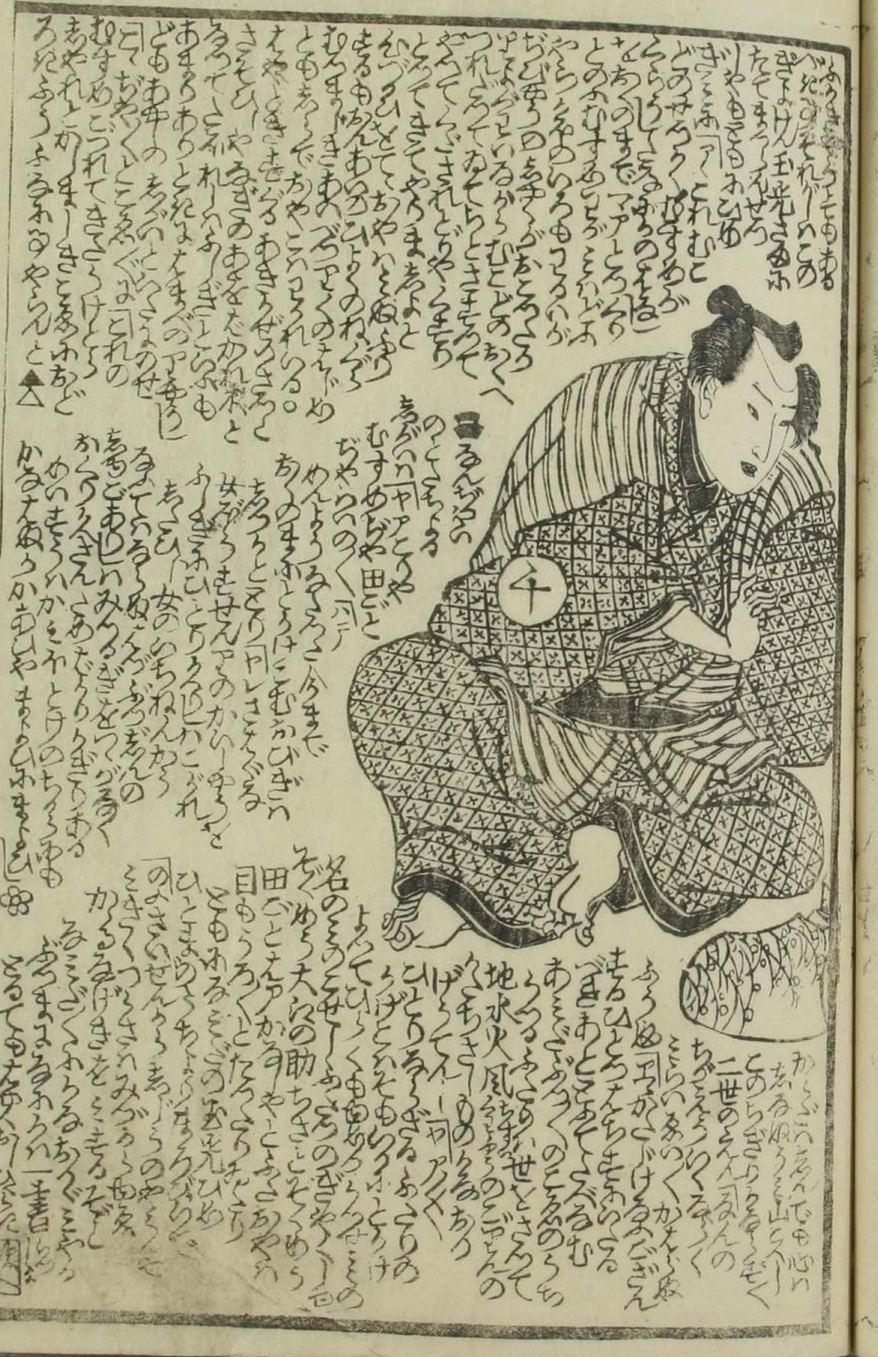
四の巻

大江の助



○三馬店制袋芽ごひろう
広懐中
早化粧 あづまぬの五十文

仙傳
人参 即功油 一貝 五十文 半貝 廿四文



三馬店せのやくはひろう

はぶの葉　五十文　五十文

・あつい箱づめ五十よりあるなぐあり

・寒のあつまて安等するもの　はるかのかつ

ようしてたげぎつけるひるあるねば日ろずこい

てもゆるひのうせるのあつくぎてすろう

ぎろんのりとてうろうきつやあり

箱入はぶみがき　五十文　二十二文

・正めんぎやうやうのうしろ入他家安教の

せのんうあり

・けそん葉　五十文

・小兒百日せきの奇葉代百文

・やうどるのあるなぐ

あるのようのる葉

・ゆきびの天狗葉はるかの

できすめの一切ひぐ

あるものやけ

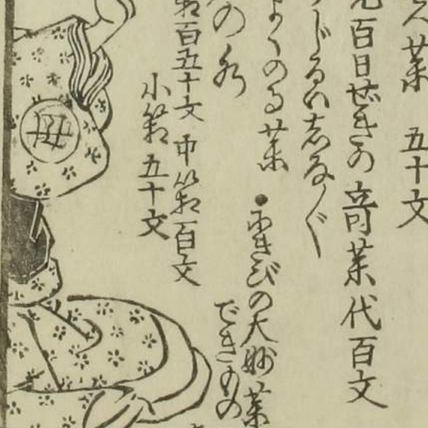
ゆうあるあ

ものあり

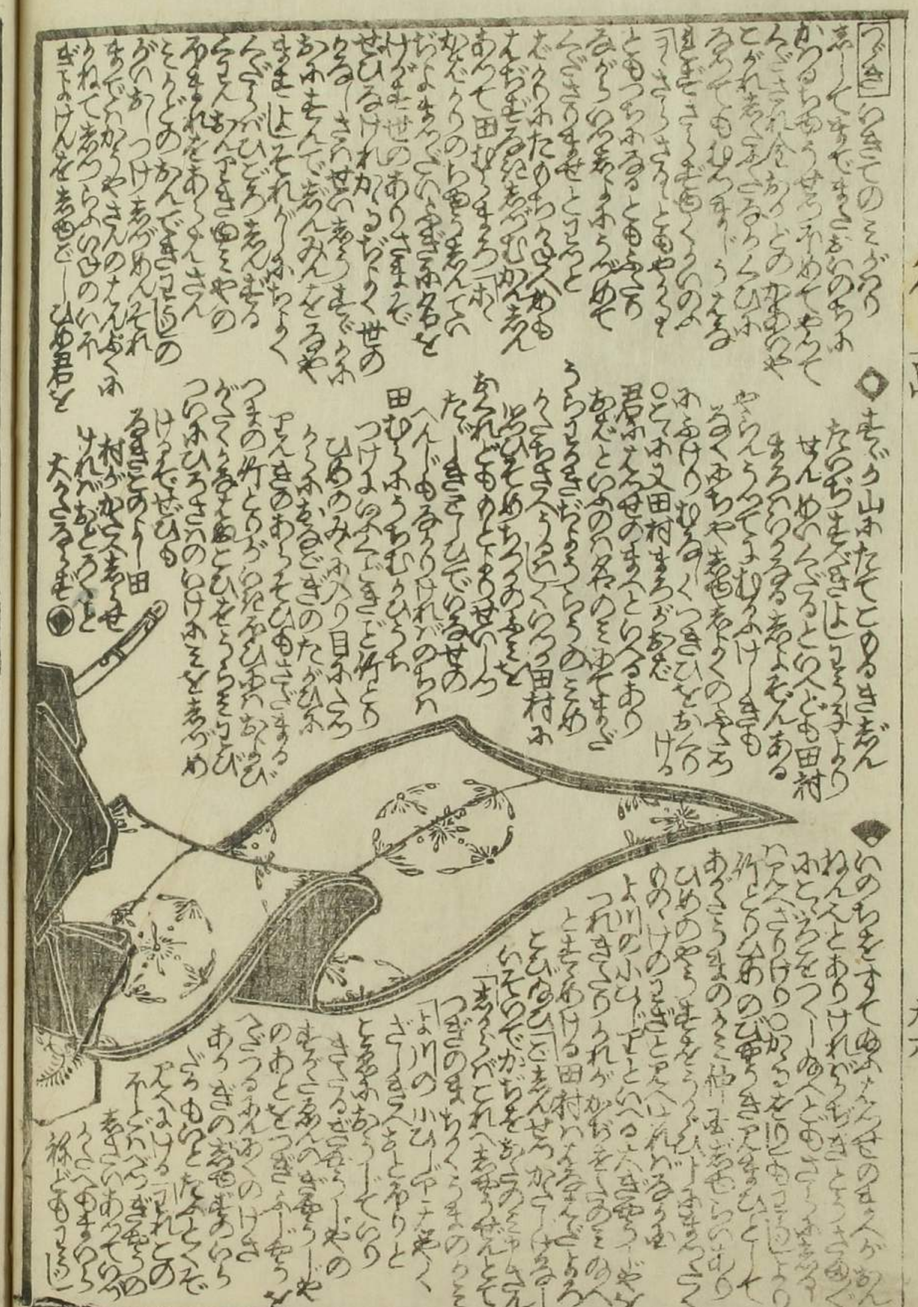
江戸の名

大第百五十文　中第百文

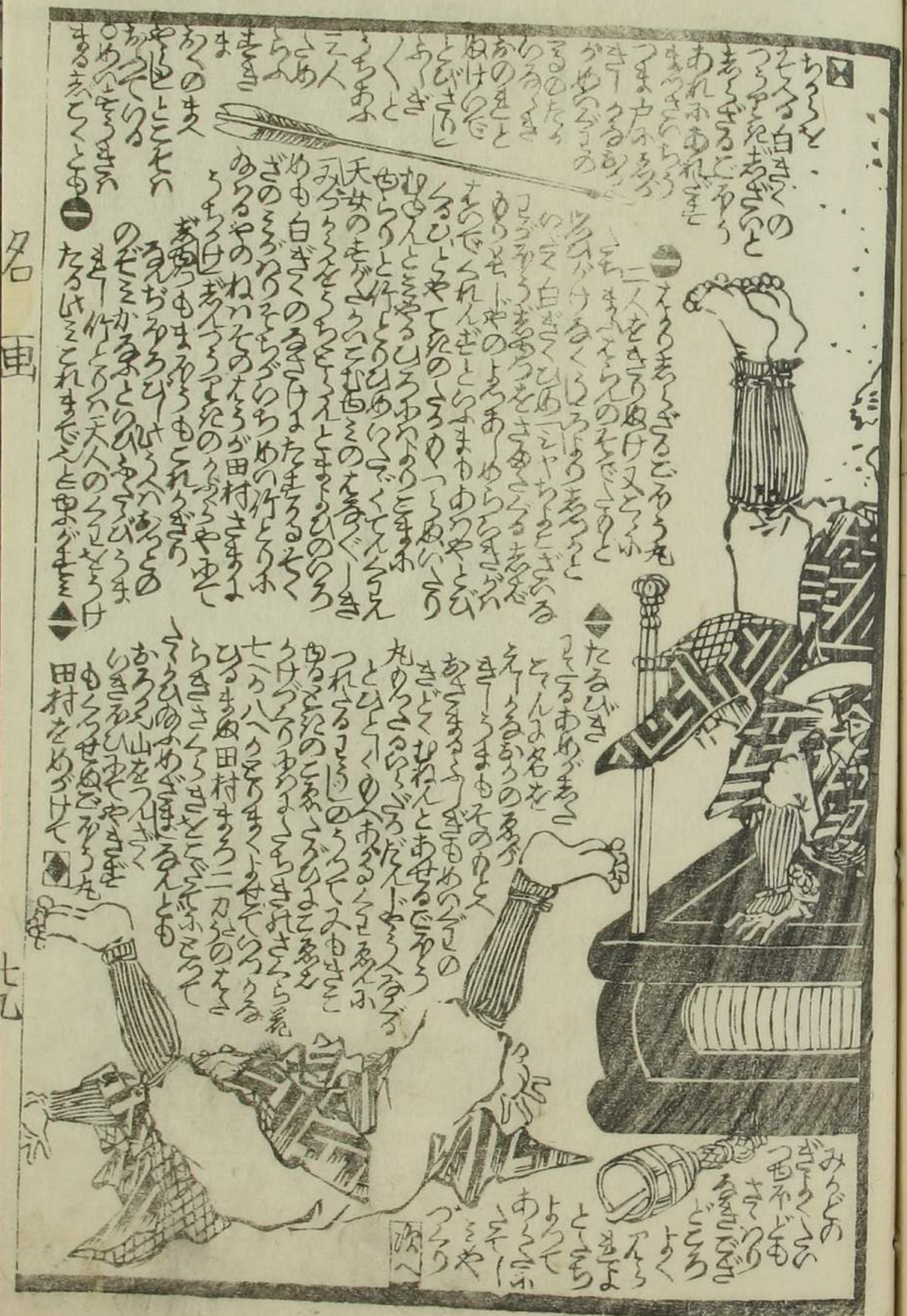
小第五十文



第六綴



帯
勝



○ちゃうの
まきふ
ふぐきーうま
ちゃんとぬけ
のでたすけのも
めとあつまどよあさ
まろーーちゃう ちゃんあうき
こせのかるみかう 今ようろ田村の
やうこそをちぐふきよみぐでうと
うつーーくめの今このこくをひろ
めんとおかせうのちのよくまでも
ぐいぐこんちゃう ちゃ番のあちちひ
あさひるふまのこくまりいこの
ときーうとちうきこうちゆあひの
ぐやうもきもわめのド「パーー」
こまとるぐくまやまうこうちゆうと
ふちゆうのそのあひぐいくだく
ちぐふとちうぐそーーてこれまでたく
きーあくちんの今とのう今ようる
ぐパーこのちゆうぐごうるそのい
ーちぐどころよめうをたん

つぎ さんーーやのこぐこいうとときあ ひうけぐこいくあちうこうあ
さうのてすきうさいくふぐぶちるまあ あつぐれていあをーそとうり
きうこいとーひぐるさねてあつ 天女とるうくるけとうひめこうせ
まんとふうこふせんとこうる まんとふうこふせんとこうる

ぐきー
まと
のみち

○立馬店
せのやーく
ぐひろう

月水不順 ちゃうの方
天女丸 百二十四文

○月ちゃうのけのものこのこれを見ひてつくーーさこうこうよう
ひさーーきふぐ見もるすーーるーーみこーー
ちこうこうよ ちゃうこうこ ちゃうこうこ
たぐうふうこうこ ちゃうこうこ
むぐちゃうの人とうるぐ ひ三年ちゃうのみんせぐれぐ
めんせぐのこうこうこうこ ちゃうこうこ
月ちゃうこうこうこ ちゃうこうこ

金勢丸 大包百文 小包五十文
絶倫ふ効ある丸薬中一の強性
・第一引風の大きうこ
異ものもちいる即功ふ
作ふうせのこうこ

引風一袋百文 代九八文

ちゃうひ入り
ちゃうこうこ
ちゃうこうこ
ちゃうこうこ

つゞき かくて合せんあんのしゆくいの
ふとけのおゝめくゝたらうまさかどのひでを
あいむらすまるといふこれ田村もせいぬ
志やうぐんとくさへゐのおんじめ
さうのうへにきやうのきぢんをそろ
ぞせいくらうおんあんさうのへゝときことぞ
こんちやうありしひがしやま
きよみづでらのふることをもとすゞの
たきのちうおんやうこれまでゝありと
ひきぬけてふるえのくすりを
たん絵きるやの絵てきぬやきく
そうらびふけるころしもおくもん
わかきこしてせんびをくやゝ
れらくもよくるらしれせいたつ
ありがたくとおびてれ代
ちやうきうたんくせいのちゑ
までもかゝりつてふる作者の
そのひとふしをそのまゝ小者文
田谷紙にかきのうるさしうやらす
あることそめでたけれ

はんじよう
ぜけんめうのおくのめりの
くすりおしろい 美艶仙女香
同あらひ粉 黒油美人香 四十八文つゝ
そのほかにくすりかずかず
おしろいのるいおほく
京橋 南傳馬町三丁目 坂本氏製

式亭小三馬作

五雲亭貞秀画

天保九戊戌新版稗史類目録

合鏡蔦錦繪 柳亭種彦作 香蝶樓國貞画 全四冊

花樓閣高峯太鼓 墨春亭梅麿作 香蝶樓國貞画 全六冊

湶浴衣菊新形 式亭小三馬作 香蝶樓國貞画 全四冊

弘法流 四十七字 忠臣蔵伊呂波 墨川亭雪麿作 香蝶樓國貞画 五編 全四冊

小櫻姫閑月奇談 墨川亭雪麿作 貞斎泉晁画 全四冊

濡鏡白雨嘶 一亭万丸作 歌川景松画 全四冊

鏡池面影草履打 一亭万丸作 歌川景松画 全四冊

和漢名画功 式亭小三馬作 五雲亭貞秀画 全六冊

美艶仙女香 一包四十八銅づゝ
黒油美人香 坂本氏製

取次所 地本問屋
江戸京橋南傳馬町壹丁目東側
蔦屋吉藏版